

映画の教室 2018

時代から観る日本アニメーション

2018年5月9日(水)、5月23日(水)、6月6日(水)、20日(水)、7月4日(水)
全5回、隔週水曜、7:20pm 開始 (約15分の研究員による解説付き)

日本のアニメーションを歴史的文脈から観る全5回!

映画芸術や映画保存を学ぶ上で重要な作品を、国立映画アーカイブの所蔵作品の中から上映するプログラム「映画の教室」は、テーマに沿った各5回シリーズ・研究員の解説付きです。シリーズを通して観ることで、より一層映画や作品への理解を深めることができます。

101年にわたる長い歴史を持つ日本アニメーションは、世界が注目する文化にまで育きました。その過程で、日本のアニメーションは教育、PR、戦意高揚、テレビ、劇場公開用商業アニメーションなどさまざまな形で製作・発表されてきました。好評を博した2017年の「素材から観る日本アニメーション」に続く第二弾として、今回は現存する最古の日本のアニメーション『なまくら刀』(1917年)から、『いばら姫またはねむり姫』(1990年)まで、歴史的な文脈を追いながら日本のアニメーションを研究員の解説付きで学ぶことができる本特集を、ぜひともご周知いただけますようお願い申し上げます。

*後期は別のテーマで10月10日(水)より全5回、隔週水曜に開催いたします。

5回のシリーズで映画を学ぶ!



■開催概要

企画名: 映画の教室 2018 **サブタイトル:** 時代から観る日本アニメーション

日時: 2018年5月9日(水)、23日(水)、6月6日(水)、20日(水)、7月4日(水) 各日7:20pm 開始 [7:00pm 開場]

会場: 国立映画アーカイブ 小ホール (地下1階)

定員: 151名 (定員制・全席自由席)

料金: 一般520円/高校・大学生・シニア310円/小・中学生100円/障害者(付添者は原則1名まで)、東京国立近代美術館及び国立映画アーカイブのキャンパスメンバーズは無料

前売券 4月17日(火)10:00amより、チケットぴあにて全上映回の前売券(全席自由席・各70席分)を販売いたします。各上映の前日11:59pmまで販売。[Pコード: 558-427]

前売料金: 一般520円/高校・大学生・シニア310円/小・中学生100円

掲載用のお問い合わせ先: ハローダイヤル 03-5777-8600

本企画ウェブサイト: <http://www.nfaj.go.jp/exhibition/filmclassof2018-animation/>

【本企画に関するお問い合わせ】

国立映画アーカイブ 教育・事業展開室 担当: 碓井、富田

電話: 03-3561-0823 FAX: 03-3561-0830 E-mail: pr@nfaj.go.jp

Film Class of 2018

■プログラム(全5回) *各回、約15分の研究員による解説付き* 記載のないものは全て35mmフィルム上映

第1回 5月9日(水) 日本アニメーションの草創期

漫画映画、線画映画などと呼ばれる中で発展していった日本アニメーション草創期。現存する最古の日本アニメーション『なまくら刀』、初期の影絵映画『蟹満寺縁起』、日本のアニメーション作家に大きな影響を与えたとされるドイツの影絵映画『カリフの鶴』などを紹介する。

上映作品 (5作品、計57分)

ファントーシュたちの恋のさやあて (4分、1908年、監督：エミール・コール)

なまくら刀[新最長版] (5分、1917年、作画：幸内純一)

カリフの鶴 (20分、英語版、1923年、監督：E. M. シューマツハー)

蟹満寺縁起 (11分、1924年、監督：奥田秀彦、木村白山、内田吐夢)

線畫 つば (17分、1925年、監督：山本早苗)



なまくら刀[新最長版]



蟹満寺縁起

第2回 5月23日(水) 戦前—トーキーへの移行とPR映画

1930年前後は世界的にトーキーの技術が開発され発展した。その頃は、『煙突屋ペロー』といった思想的なアニメーション映画も製作されるようになった。『三匹の小熊さん』はプロレタリア芸術運動家の岩崎昶が監督、村山篤子原作、村山知義作画のモダンな作品。

上映作品 (4作品、計50分)

煙突屋ペロー (23分、16mm、1930年、監督：田中喜次)

三匹の小熊さん (12分、1931年、監督：岩崎昶)

茶目子の一日[パテトーキー版][デジタル復元版] (7分、1931年、監督：西倉喜代治)

オモチャ箱シリーズ第3話 絵本1936年 (8分、1934年、作画：中野孝夫、田中喜次、舟木俊一、永久義郎、平泰陣、西口巖)



茶目子の一日[パテトーキー版][デジタル復元版]

第3回 6月6日(水) 戦中期—戦意高揚映画

戦争の色へと染まっていった日本は1939年に映画法を施行し、戦中は軍部による映画製作も行われた。『桃太郎の海鷲』は映画法施行後、初めて文部省推薦を受けたアニメーション作品。『フクちゃんの潜水艦』は、当時の大人気漫画の「フクちゃん」を主人公にした戦意高揚アニメーション。

上映作品 (2作品、計63分)

桃太郎の海鷲 (33分、1942年、監督：瀬尾光世)

フクちゃんの潜水艦 (30分、1944年、監督：関屋五十二、横山隆一)

第4回 6月20日(水) 戦後①—本格的な商業展開

戦後、本格的に劇場公開長編アニメーションやテレビ向けに作品が製作されるようになった。東映動画第一弾として発表された『こねこのらくがき』、数々のテレビアニメーションに携わった鈴木伸一の『プラス50000年』などを紹介する。

上映作品 (4作品、計61分)

すて猫トラちゃん (21分、1947年、監督：政岡憲三)

こねこのらくがき (12分、1957年、監督：薮下泰次)

注文の多い料理店 山ねこ軒 (19分、1959年、監督：小野豪)

プラス50000年 (9分、1960年、監督：鈴木伸一)

第5回 7月4日(水) 戦後②—アニメーション作家による発表

商業的に映画館やテレビ向けにアニメーションが製作される一方、作家による作品発表も活発になった。“アニメーション三人の会”の上映会はフェスティバルとして成長し、国内外の作家の作品を紹介した。岡本忠成と川本喜八郎は、“パペットアニメーション”を開催した。

上映作品 (3作品、計71分)

ある街角の物語 (39分、1962年、監督：山本映一、坂本雄作)

チコタン ぼくのおよめさん (11分、1971年、監督：岡本忠成)

いばら姫またはねむり姫 (21分、1990年、監督：川本喜八郎)